

歴史と自然の国トルコ

川 澄 美 道 (かわすみ よしみち)

日本道路公団東京第二建設局 高崎工事事務所所長

トルコと言えば、ヒッタイトからオスマンの時代まで騎馬民族の長く支配した地域です。特にオスマントルコの帝国は、アレキサンダーの帝国、モンゴールの帝国に次いで歴史上現れた大帝国です。しかもオスマン帝国は13～19世紀の終わりまで広大な領地を維持していたことから比較にならないほど長く繁栄した帝国と言えます。

私は、1989年から3年間、国際協力事業団経由でトルコ公共事業省道路総局（トルコではKGMと呼ばれている）に高速道路の建設、管理の専門家第1号として派遣されていました。KGMは、国道、主要地方道合わせて約60,000km（市町村道等を含めたトルコにおける道路全延長は約30万kmと言われている）をその管理下に置く組織ですが、ここ10年ほどは高速道路の整備を強力に押し進めており（21世紀初頭までに3,000kmを整備する）、有料道路制度の先達であるわが国に協力を求めてきたものです。現在の高速道路整備状況を図-1に示します。トルコの高速道路は往復6車線が標準で、用地幅は将来

何があっても対応できるようほぼ一律100mが確保されています。

3年間の技術協力を一口で総括するとすれば正に試行錯誤の連続と言うのが正直なところです。この間イベントとしてJICAセミナーを2回、ミニ・セミナーを5～6回実施し、更に管理に関する開発調査案件をスタートさせ、プロジェクト協力案件の準備をし、カウンター・パート研修を日本とトルコで繰り返し、山ほどの資料を作成しました。また、KGMの職員と連れだって現場を回るのもこれは昼の部、夜の部を含めて思い出の多い、楽しい業務です。しかし、歴史と伝統の国トルコは同時にプライドと複雑な官僚制度の国でもあります。それにどう対処するかでトルコは天国とも地獄(?)とも感じられるでしょう。

さて、専門家の仕事は、技術協力と共に国際親善に尽すところにもあります。家庭にあっては楽しいホーム・パーティーを繰り返し、食の文化を中心に

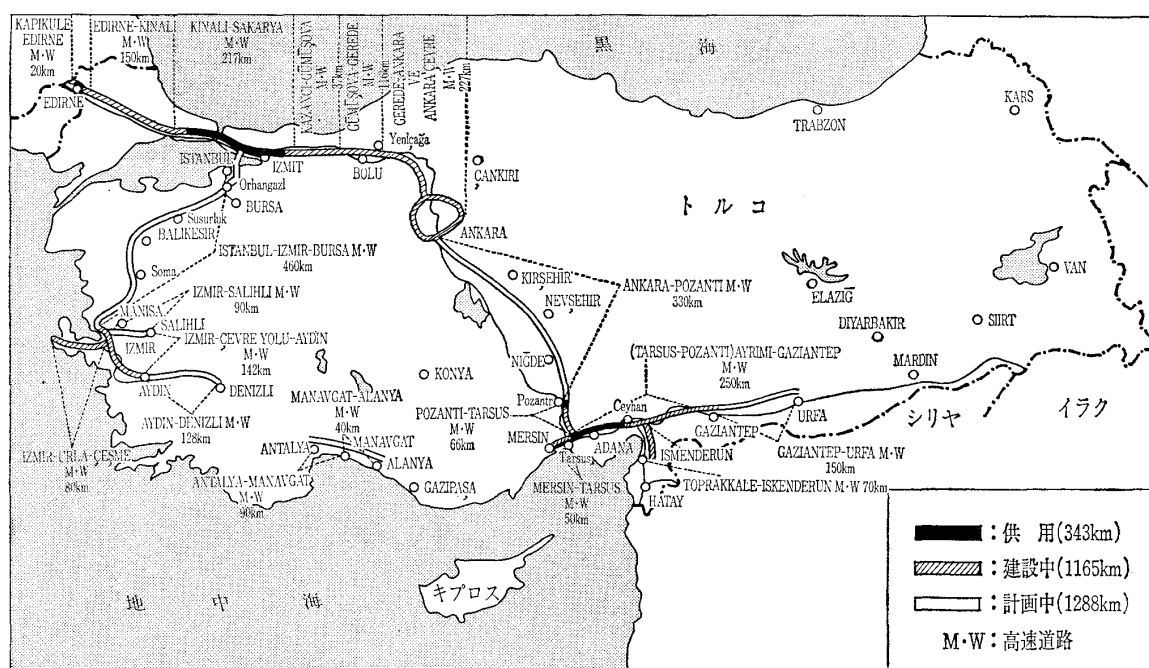


図-1 トルコの高速度道路の供用・工事・計画路線

日本の文化を売り込み、そしてまた招かれ上手になりその国の文化を吸収します。このために畳を四畳半そして漆器、焼物、茶道具と日本でのショッピングを楽しみトルコまで運んで行きました。パーティーには内助の功が実に大ですが、日本にいる時と違い時間的余裕がかなりあるため厨房に慣れきれるのも専門家の特権(?)です。そして会社にあっては、たとえトルコ・コーヒーや濃厚な紅茶が口に合わなくともほぼ1時間ごとのティー・タイムにこれを飲み、職員の人生訓話や駄洒落に興じ、そして夜になったら灰汁の強い国民酒、白濁するラクに舌つつみを打つのが作法です。もっとも私はこのラクが大好きでした。

本省の所在地と言うことで私は首都アンカラに住んでいましたが、高速道路の現場はアンカラ郊外のほかイスタンブールとエーゲ海沿いにあったためこれらの地をよく訪れることになりました。特にエーゲ海、地中海はマリーン・スポーツのメッカとも言え、ビーチには世界中の人々が集まるリゾート・マンションが立ち並んでいます。夏ともなると現場もそこそこに、どこまでも青く澄みとおった海の魅力に取り付かれてしまいます。イルカと戯れながら沿岸に点在するギリシャ、ローマ時代の遺跡を巡り、いずれギリシャの島々に至るクルージングはこの辺りを行くヨット・マンに最も人気のあるコースです。

トルコではインフラ整備に限らずいろいろな分野でかなりの外貨ローンが使われており、対外債務の合計は現在約5兆円程度で、これは実にGNPの5割に当たり、年間の債務返済額も1兆円程度となっています。写真-1にあるのはわが国の経済協力のシンボリックな存在となっているイスタンブールの第2ボスポラス橋です。8車線の断面をもっており、スパン1090mの吊り橋です。

イスタンブールの歴史は長くギリシャ時代、紀元前7世紀から知られています。トプカピ宮殿、ギリシャ聖教の総本山として建てられたアヤソフィア、グラン・バザール等たくさん見所があります。名門イスタンブール工科大学、新鋭ボスポラス大学もここに 있습니다。時代物のハمام(トルコ風呂)、夜を飾る無数のカジノ(オリエンタル・ダンスを売



写真-1 第二ボスポラス橋を背景にKGMの職員と

り物とする店)、そしておびたしい数の魚レストラン、ケバブ・レストラン……。

思い出の国トルコ、雨の降らない夏の日に大雨が降り一日で盛土が溪谷と化してしまったり、これまた突風が吹き荒れて、やっと立ち上がった型枠がアレヨという間に寝込んでしまったり、かと思えば待ちに待った品物がやっと日本から届いた途端、手続きミスとかやらで没収となってしまうたり、病院で自慢といわれるレントゲン撮影器を何が自慢と良く見ると「大正〇〇年日本製」とあり知らなきゃ良かったとゾーとしたり、明け方近く苦心惨たんワープロを打ち終えて、さてファイリングと思った途端の停電に余りの事とショック死しそうになったり……etc. etc. と今では笑いが止まりません。

人間苦境にあってこそ成長するのだと、これこそ海外に行く事のできた者の幸運なのだと、しばらくそこにいる内にそう思えるようになるものです。

歴史と自然の国トルコ、毎日ハプニングがあり決してあなたを飽きさせることの無い国！インフレ、クルド人問題、イスラム原理主義者の動き、CIS、統一ヨーロッパへの対応等課題は多いのですが、治安も良く親日的で、是非また行きたいエキゾチックな国です。

若きエンジニアの皆さん、私の文章を読んで「私も行こう！」と夢を膨らませて下さったかチョット心配です。そこで最後に一つだけ確かな事を。それは世界が実に広いという事、そして未来の親友がそこで密かにあなたを待っているという事。世界がこれほど近くなったこの時代、異国に羽ばたき、異国のエンジニアと苦楽を共にする事なく狭き日本で年を取ってしまうとは、何とももったいない事だとは思いませんか。

(原稿受理 1992.9.1)